

「であうべ」

Aグループ

山口大学 加藤祐史

日本大学大学院

早稲田大学大学院

泉山墨威

榎木繭子

九州大学大学院

日本女子大学

伊賀上剛史

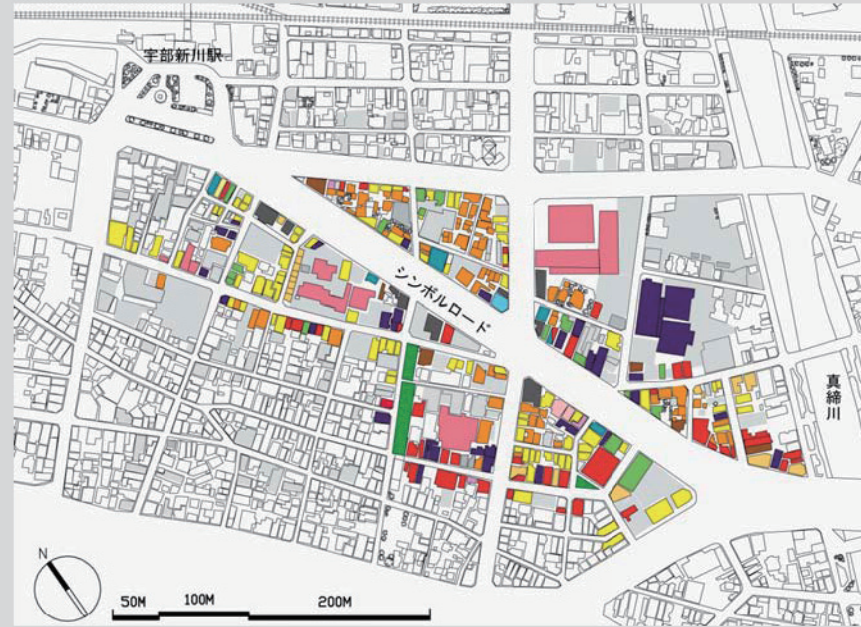
藤田紗代子

分析一拠点/資源の抽出



宇部のまちでは、資源の抽出により、連続性、回遊性を創出する可能性が、明らかになった。また、シンボルロードの中でも、交差点に拠点になりうるポテンシャルを感じた。

分析一建物利用



また、シンボルロードの用途現況を調査したところ、混在した用途の中でも、塾や空きテナント・空きビルが多く、特にシンボルロードの南側が特に顕著に現れている。

- オフィス、事務所
- 空き家・空きテナント
- コンビニ
- 塾
- 金融関係オフィス
- お土産屋
- 飲食店舗
- 住宅
- 公園・オープンスペース
- 駐車場

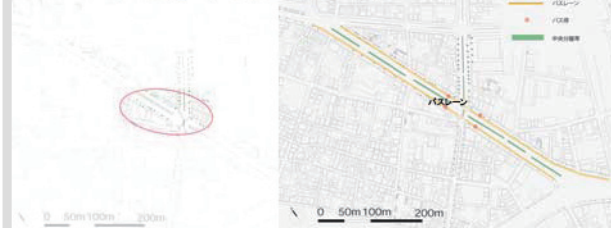
分析一利用者ゾーニング



用途現況および現地踏査から、交差点付近の利用者と利用ゾーンを抽出した。交差点に様々な利用者が行き交う可能性をもっている。

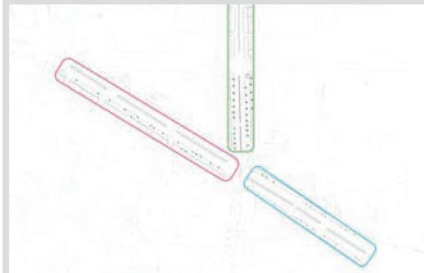
提案を実現する3つのステップ

STEP1 ひとを呼び込む土台づくり



電気バスの新規バス停整備

STEP2 ひとをよびこめるエリア/みちづくり



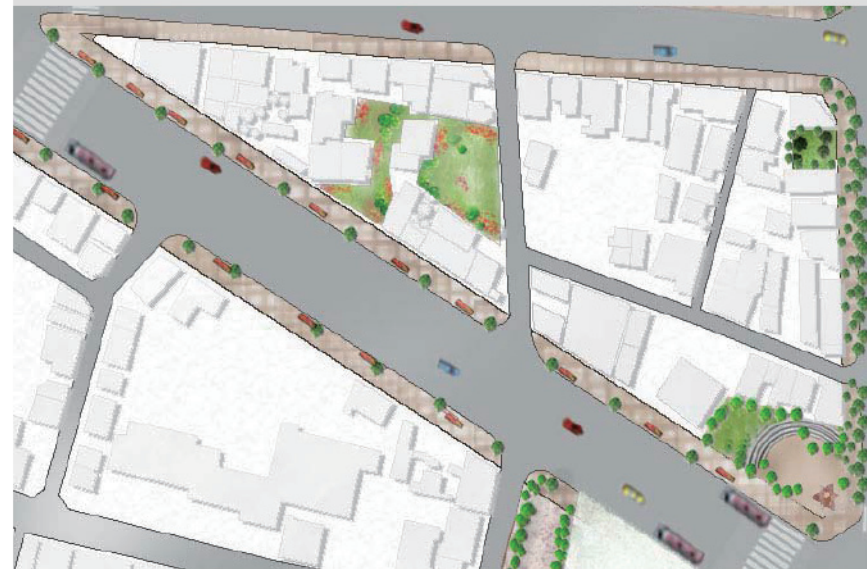
ガイドラインなどにより、通りごとに性格づけを誘導していく。

STEP3 よびこんだ人をただずませる核づくり



ガイドラインによる通りの性格づけ

シンボルロードの賑わい創出の1手段として、ガイドラインによりゆるやかに特徴づけていく。バス停交差点で3本の異なる性格の通りが交わっていく。



シンボル通り北一緑と花と彫刻の溢れる通り

ガイドライン
はなまちづくりガイドライン
住民に植木や花壇づくりの推進、住民による街路花の維持

空間の整備
通り沿いのパーキングの廃止と空き地の緑化



渡辺翁通り一緑と彫刻溢れる公園的通り

ガイドライン
セットバックの義務(1m~2m)
オープンスペースには、テラスやベンチの設置

